



PRESS RELEASE

令和 8 年 7 月 31 日

JR 沿線の伐採木が備前焼の景色になる
—岡山大学・JR 西日本・備前焼作家による新ブランド誕生—
車窓の景色・備前焼の景色・暮らしの景色を一つにつなぐプロジェクト

◆発表のポイント

- ・岡山大学と JR 西日本岡山支社との連携協定事業の一環で、本学学生による新しいコンセプト「3 つの景色をつなぐ」による備前焼の開発。
- ・JR 西日本岡山支社管内の路線沿線で伐採した木材（車窓からの風景）を備前焼の窯の薪として使用することで木灰が自然釉となり、作品表面の新しい模様（備前焼の風景）をつくります。
- ・JR による窯の燃料（木材）の提供や、学生主導によるブランディングやパッケージデザインにより、備前焼の販売価格が 4 割程度抑えられ、備前焼のある日常生活の風景を実現。

JR 沿線の伐採木が、備前焼の新しい景色となり、暮らしの器へ——。岡山大学、JR 西日本岡山支社、備前焼作家が連携し、学生が企画・ブランド開発を担った新ブランド「BIZENYAKI NEO KESHIKI」を令和 8 年 8 月中旬から販売開始します。

本プロジェクトでは、JR 西日本岡山支社管内の鉄道路線沿線で伐採した木材を、備前焼の窯焚きの薪として活用します。木灰が自然釉となることで、従来にはない新たな「景色」を器の表面に生み出すとともに、これまで燃料利用が中心であった伐採木に新たな文化的価値を与える循環型の取り組みです。

さらに、学生がブランドコンセプトやロゴデザインを担当し、岡山大学教員が備前焼の景色を見せる新しいパッケージを開発しました。これにより、従来 18,000～20,000 円程度で販売されている作品を約 10,000～12,000 円で販売することが可能となり、備前焼をより身近な日用品として提案します。

本プロジェクトが目指すのは、「JR 沿線の景色」「備前焼に現れる景色」「備前焼のある暮らしの景色」という 3 つの景色をつなぐことです。地域資源、伝統工芸、大学教育を結び付け、新しい循環型ブランドとして岡山から発信します。

◆研究者からのひとこと



PRESS RELEASE

JR 沿線の木が備前焼の景色になる。その景色を毎日の暮らしで楽しめることが、このプロジェクト最大の魅力です。これは備前焼の話ではなく、新しい循環型ブランドの提案です。

本プロジェクトのために作品作りに取り組んでくださいました松井宏之先生、木材を提供くださいました JR 西日本様、パッケージの作成に協力くださいました、本学山本和史教授、そして、コンセプトワークからブランディング、資材運び、焼成の手伝い、すべてに全力を尽くしてくださった学生の皆さまに深く感謝申し上げます。



清田教授

■発表内容

<現状>

○岡山大学学生アートプロジェクトチーム STartLE :

世界と身体との新しい関係のクリエイションをコンセプトに活動をしている学生チームが、今回、伝統文化（備前焼）と日常生活との新しい関係や距離感をクリエイションするプロジェクトを実施し、コンセプトからブランディング、作家と交渉まで行いました。コンセプト設計、ブランド名、ロゴ、パッケージ企画、作家との打合せ、焼成補助、販売企画まで担当しています。

○JR 沿線の伐採木 :

伝統文化と日常との新しい関係の提案として、JR 西日本岡山支社に依頼し、岡山県内の路線沿線の伐採木の提供をいただくことにしました。これまで、バイオマス燃料として活用する流れだけでしたが、伐採木を新たな文化価値へと再生する試みをプロジェクトの中で実施させていただきました。今年度は、津山線 玉柏駅—牧山駅間の伐採材木 3 トンをご提供いただき、備前焼作家松井宏之先生の窯場まで運搬いただきました。

○備前焼作家 松井宏之先生 :

例年、国内百貨店や米国、欧州、アジア各国で個展をされておられる森陶岳門下の松井宏之先生に、JR 沿線の伐採木を窯焚きの薪として利用いただき、これまでなかった木灰による（アカマツでは得られないような）自然釉の効果のある作品に挑戦していただきました。

○パッケージ :

これまで備前焼は桐箱に入れて販売されることが多かったのですが、それではせっかくの美しい備前焼の模様（景色）が見えません。そのため、本学、山本和史教授（学術研究院教育学域・木工芸）の技術提供により、運搬に堪えることができ、かつ備前焼の景色が見えるパッケージの開発ができました。このパッケージは岡山大学より提供されます。

<研究成果の内容>



PRESS RELEASE

○新しいコンセプト：

プロジェクト名および、商品名を＜BIZENYAKI NEO KESHIKI＞とし、「3つの景色をつなぐ備前焼」をメインコンセプトに、それぞれ3つの景色への想いを以下のように学生が設定しました。

「線路沿線の木が生い茂る景色」→安全な暮らしへの想い

「備前焼の中に浮き出る景色」→古来から続く美しさを楽しんで欲しいという想い

「備前焼がある暮らしという景色」→備前焼をもっと日常的に使って欲しいという想い

それらが叶った新たな日常を NEO KESHIKI と位置付け、実現を目指すブランドとなります。

図1は、今回のコンセプトを図で表したものです。岡山大学、および、学生は3つの景色の間にある関係に関与しています。図2はロゴデザインです。

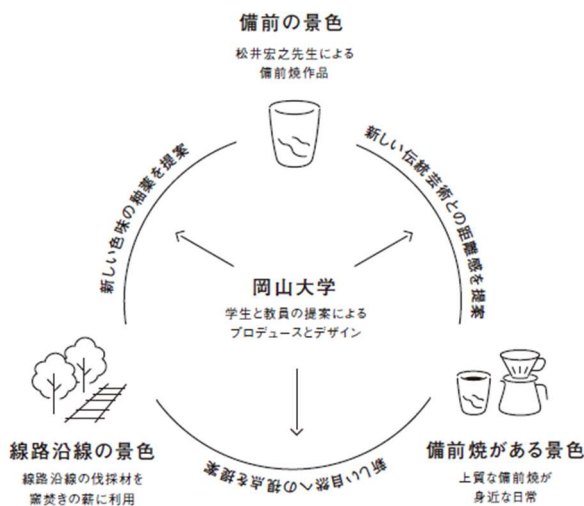


図1：コンセプトイメージ 「3つの景色をつなぐ」



BIZENYAKI
NEO KESHIKI

図2：ロゴデザイン

○価格と販売：

東京の個展で、18,000～20,000円相当の湯呑とビアカップをJRの燃料提供や岡山大学による（従来の桐箱に代わる）パッケージやブランディングの提供により、10,000円（湯呑）、12,000円（ビアカップ）（共に販売価格）の価格設定を可能にしました。

販売は岡山大学生協や、JR西日本産直オンラインショップ DISCOVER WEST Mall 他、コンベックス岡山で12月に開催される『暮らしを彩る器フェア』等各種企画展示会でも販売予定です。販売作品数は今年度については、湯呑とビアカップの2種で各種50セット限定での販売となります。

図3は商品（パッケージのイメージです）



図3：商品（パッケージ）イメージ（ツートンカラー案）

＜社会的な意義＞

岡山の伝統工芸である備前焼は決して閉ざされた文化で独自の進化をしているのではなく、常に時代にあわせて、柔軟な変化を遂げています。今回、循環型社会を背景とした私たちの新しい生活の変革の中で、備前焼をめぐる、木材の新しい循環を実現できました。産学連携による、学生主体の新しい動きと、安価で手に取りやすい「伝統文化のある生活」の提案ができたものと考えています。

＜お問い合わせ＞

岡山大学学術研究院教育学域

教授 清田 哲男

（電話番号）086-251-7663

（FAX）086-251-7663



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。





BIZENYAKI NEO KESHIKI

備前焼 NEO KESHIKI プロジェクト

2026.07.13



CONCEPT

「3つの景色をつなぐ備前焼」

このプロダクトには3つの景色への想いが宿っている。

「線路沿線の木が生い茂る景色」→安全な暮らしへの想い

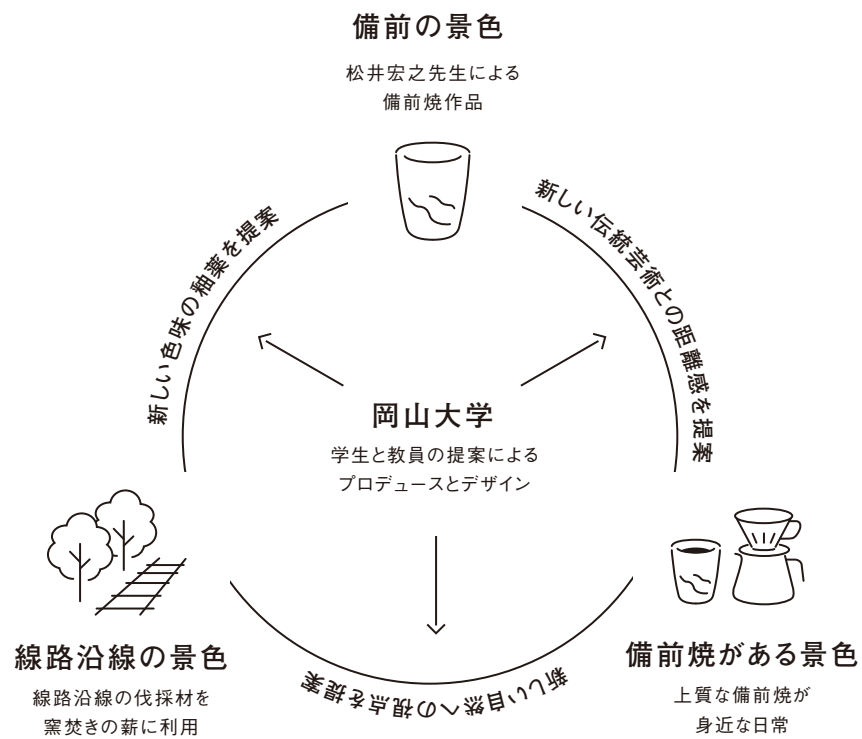
「備前焼の中に浮き出る景色」→古来から続く美しさを楽しんで欲しいという想い

「備前焼がある暮らしという景色」→備前焼をもっと日常的に使って欲しいという想い

それらが叶った新たな日常をNEO KESHIKIと位置付け、実現を目指すブランドとなる。

コンセプト方向性

相関図イメージ「3つの景色をつなぐ」



ロゴデザイン案1



BIZENYAKI
NEO KESHIKI

デザインバリエーション検討

共通デザイン(マグ・ビア共通)



デザインバリエーション検討

ツートン(マグ・ビア共通)



デザインバリエーション検討

ツートン(マグ・ビアデザイン違い)

